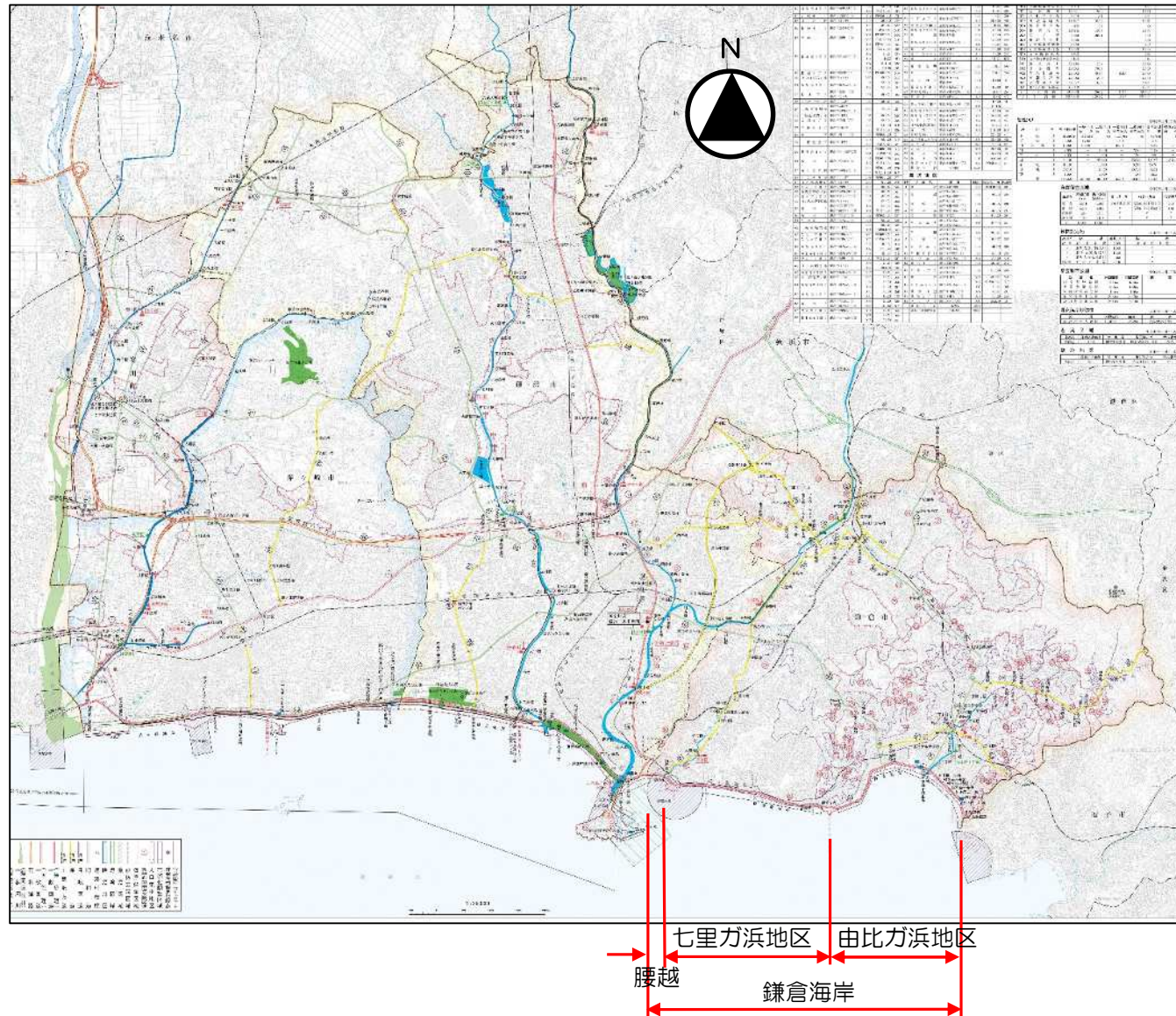


位置図



かまくらかいがん 鎌倉海岸

侵食対策事業



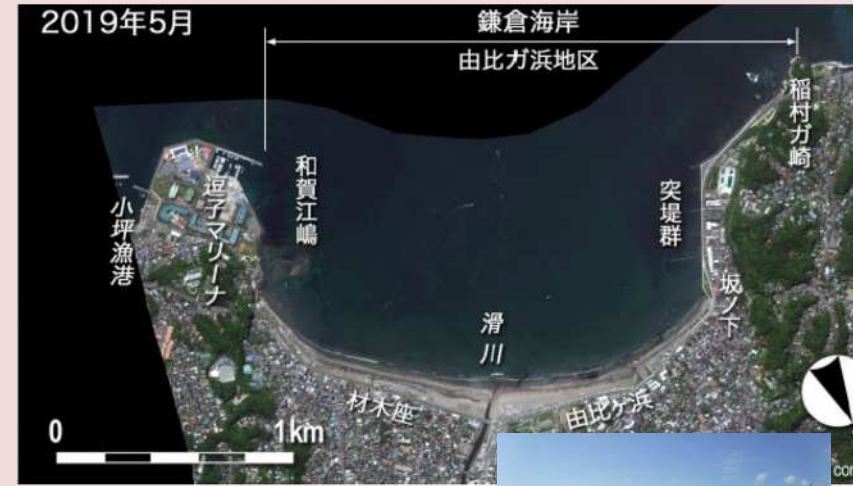
鎌倉海岸七里ガ浜地区 令和4年1月撮影

美しいなぎさの継承をめざして

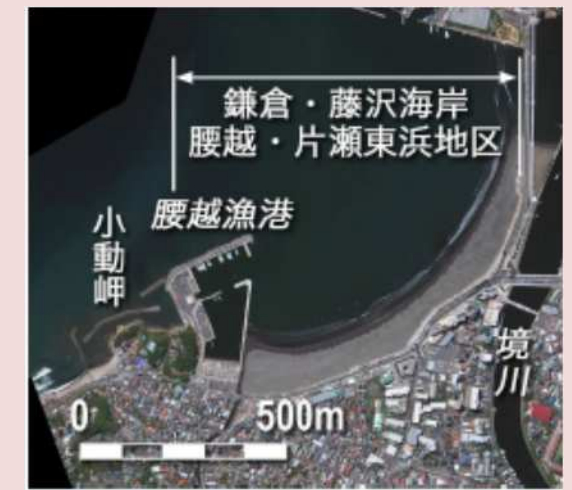
事業の目的

鎌倉海岸は逗子市境から藤沢市境に広がる長さ約6kmの海岸で、由比ガ浜地区、七里ガ浜地区、腰越地区の3地区で構成されています。

- ①由比ガ浜地区は、西側を坂の下の埋立地と東側を逗子マリーナに挟まれたポケットビーチで、中央に滑川が流入していることから河口周辺に堆積した砂を定期的に両端部に戻すサンドリサイクルによる養浜（維持養浜[※]）に取り組んでいます。
- ②七里ガ浜地区は、東端の稲村ガ崎から西端の小動岬に挟まれたポケットビーチで、最近、稲村ガ崎周辺で著しい侵食が生じていることから、令和4年7月に「鎌倉海岸七里ガ浜地区侵食対策協議会」を設置し検討・検証しながら、砂浜の回復に向け、養浜（計画養浜[※]）に取り組んでいます。詳細は、下記の事業概要をご覧ください。
- ③腰越地区は、東側の小動岬から藤沢市境までの腰越漁港区域を除いた砂浜海岸で、藤沢市片瀬東浜地区と合わせたポケットビーチで、砂浜の状況に応じて、サンドリサイクルによる養浜（維持養浜[※]）に取り組んでいます。



①由比ガ浜地区



③腰越地区

事業の概要（②七里ガ浜地区）

○海岸名：鎌倉海岸七里ガ浜地区（かまくらかいがん しちりがはまちく）

○1年間の計画養浜量：5,000～10,000 m³/年

○箇所：鎌倉市七里ガ浜

○目標とする浜幅：20～30m

○事業年度：令和4年度～

○事業内容

- ・七里ガ浜地区は、近年、急速に侵食が進み、特に稲村ガ崎西側隣接部では砂浜が狭くなり岩盤の露出が目立つようになりました。また、令和元年等の台風に伴う高波浪の影響により、国道134号で道路陥没などの被害が発生したことから、計画的な養浜により砂浜の回復を目指すこととしました。
- ・養浜工事を行うにあたっては、環境や利用への影響を最小限に抑え、効果的な砂浜の回復を図るための具体的な養浜計画について検討・検証を行う必要があることから、令和4年7月に学識経験者や地元関係者等で構成する「鎌倉海岸七里ガ浜地区侵食対策協議会」を設置し、検討・検証しながら取り組んでいます。

施工状況



令和7年3月

平面図



七里ガ浜東側の侵食状況

平成26年4月撮影



令和6年4月撮影



※矢印が同じ位置

- ※ 維持養浜：必要な砂浜幅を今以上に侵食することを防止する養浜
- 計画養浜：海岸背後地を守る上で必要な砂浜幅を回復させる養浜